

令和2年度 第2回 御代田町総合教育会議 会議録

招 集 年 月 日	令和3年3月25日(木)		
招 集 場 所	エコールみよた 大会議室		
開 閉 会 時 の 日 時	開 会	令和3年3月25日(木) 午後1時30分	
	閉 会	令和3年3月25日(木) 午後2時35分	

意見交換

(1)「みよた学」について
(2)「ステップアップ塾」・「夢サポート塾」の報告と今後について
(3)「図書館を使った調べる学習コンクール」について
(4)「令和の日本型学校教育」について

出席者の職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名
御 代 田 町 長	小園 拓志	教 育 委 員	市川 美香
教 育 長	茂木 伸一	教 育 委 員	中山 梨恵子
教育長職務代理	山口 智之	教 育 委 員	屋代 司

説明のため出席した者の職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名
教 育 次 長	木内 一徳	参事兼社会体育係長	相澤 昇
参事兼博物館係長兼 博 物 館 長	堤 隆	教育次長補佐兼 図 書 館 係 長	大井 るみ子
生涯学習係長	大井 敏	学 校 給 食 係 長	藤巻 祐子
学 校 教 育 係 長	小平 佳伸		

職務のため出席した者の職氏名

書 記	上林 篤弥
-----	-------

傍聴人

0人

第2回 御代田町総合教育会議 会議録

1. 開会

木内教育次長 開会あいさつ

2. あいさつ

小園町長 教育委員の皆さんには、ご多忙のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

総合教育会議につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、わたくし町長と教育委員会がより連携し、教育行政のさらなる充実を目的に設置されています。本日の議題は長野県の「地域発元気づくり支援金」を活用して刊行しました「みよた学」や、公設学習塾の「ステップアップ塾・夢サポート塾」の報告などについて、忌憚のないご意見を出していただき、より良い語らいの場となることを期待しています。

茂木教育長 本年度第2回の総合教育会議となりました。ここで協議されたことが町の教育施策に反映される部分もありますので、来年度以降を見据えて、町長を交えて意見交換のできるこの場を大切にしたいと思います。わずかな時間ではありますが、忌憚のないご意見をお願いいたします。

3. 意見交換

(1) 「みよた学」について

堤参事兼博物館係長 兼博物館長 今回の「みよた学」の冊子は、長野県の「地域発元気づくり支援金」を活用して、入門編ということで刊行しました。

これまで御代田町の子どもたちや住民の皆様が御代田町の自然や地形、産業、交通、浅間山などについてご理解いただく機会がなかったというところから今回の刊行に至りました。

その他冊子の中身について、資料に沿って説明。

(2) 「ステップアップ塾」・「夢サポート塾」の報告と今後について

小平学校教育係長 公設学習塾「ステップアップ塾」(小学4年生～中学2年生対象)及び「夢サポート塾」(中学3年対象)の報告と来年度の実施について、資料に沿って説明。

山口職務代理 公設学習塾事業はとても素晴らしい取り組みだと思います。今年度の長野県の高校選抜入試で、第5通学区に関しては定

員がオーバーしている高校もありましたが、第6通学区はほとんどの高校が定員割れをしていました。

「夢サポート塾」の目的は希望している高校に合格することなのか、または本来その生徒が持っている力をさらに向上させることなのかを明確にする必要があると思います。非常に難しいことですが、参加した生徒が本来持っている力よりも更にステップアップできるような塾を目指していかないと、開講していることの意味を見出せないような気がします。

小平学校教育係長

方針としては、基礎学力の向上及び学習習慣の定着がメインであり、その延長として高校受験の合格を見据えて実施しました。今年度は休校等で授業日数が少なくなってしまったので、そのフォローも併せて実施しました。

山口職務代理の仰るとおり、基礎学力の向上を踏まえながら、現状より一段階上にステップアップすることもとても大切なことだと考えております。

山口職務代理

指標として、個人の中学1年生からの成績の推移が分かるものがあれば成果の1つとなり、「夢サポート塾」の有用性も上がると思います。

小平学校教育係長

成績等が目に見えて分かるようなものがあれば、説得力もあるので、今後取り組みを進めていく中で、検討していきたいと思えます。

屋代委員

私は昨年「ステップアップ塾」で講師をしています。

学校の授業についていけずにくすぶってしまう生徒もいますが、私はある程度理解できている生徒が気になりました。理解力があるので、周りよりも先に終わってしまい、周りの生徒をかまいたしてしまう場面がありました。そのような生徒をさらに伸ばせるような教育をしていく必要があると思いました。

中山委員

「ステップアップ塾」についてですが、講師のテキストの感想の中に「基本を学ぶ必要がある生徒にとっては高度かつ量が多いかもしれない」とあります。同じクラスに入ったら、同じテキストで授業を行うような仕組みでしょうか。苦手な箇所がある子どもに対して、個別に重点的に指導することが出来たら良いと思いますが、現在はあるのでしょうか。

小平学校教育係長

「ステップアップ塾」はクラス分けをしておりません。授業形式のみで行うわけではなく、ドリル学習や講師が独自に用意したプリントを行うこともあります。わからないところがあれば

ば、個別に指導しています。

講師の先生方からは、理解できていない子どもに個別指導をしていると理解できている子どもを一人にしてしまうことが申し訳なく感じる、という感想も聞いています。

中山委員

さらに底上げに力を入れるのであれば、クラスを習熟度で分けて実施した方が良いと思いました。

「夢サポート塾」についてですが、参加者の感想・意見の部分で月額 2,000 円という安い金額で授業を受けているのに、不満があると回答している生徒たちはどのような部分に不満を感じているのでしょうか。

小平学校教育係長

実施期間中に「夢サポート塾」を辞めた生徒に理由を聞くと、1 クラスは 7 人～9 人程度の少人数制で行っていますが、1 対 1 のマンツーマン指導が希望していたという理由でした。「夢サポート塾」は開講前にクラス分けテストを行っていますが、クラス内で差ができてしまうこともあり、物足りなさを感じてしまう生徒もいました。

中山委員

今年は中学 3 年生のみ対象で、10 月からの開講でしたが、開講がもう少し早かったり、さらに下の学年も対象に加えるのも良いと思います。

小園町長

私も不満の割合については、中山委員と同じようなことを思いました。「夢サポート塾」に参加している生徒の保護者の皆様は子どもを塾に通わせたことがない方が多いのではないかと想像しました。「夢サポート塾」には今まで塾に通ったことがない生徒たちにも通える機会を作ることも目的としています。

この事業だけではなく、新規事業は良いと言っただけですが、年数を重ねていくと当たり前になってしまい、その次の新たなものを打ち出していく必要があります。これは行政全体の課題だと思っています。

屋代委員

「夢サポート塾」のアンケートは教育委員会が集計したのでしょうか。

小平学校教育係長

アンケートは「夢サポート塾」事業の委託先である(株)トライグループが行いました。

屋代委員

質問内容についてですが、客観的な質問と主観的な質問を組み合わせた方が良いと思います。そうすると、より鮮明に課題が見えてくると思います。

小園町長

町の政策で行っているので、課題が見えてくるようなアンケ

ートを教育委員会で実施するべきだと思います。

小平学校教育係長

今年度実施するアンケートはそのように対応します。

(3)「図書館を使った調べる学習コンクール」について

大井教育次長補佐
兼図書館係長

これからの教育においては子どもたちの ICT 活用能力を一層高めるとともに、活字に親しむ読書力や問題解決のために書籍や文献を調べて資料や情報を収集及び選択し、自ら判断して自分の考えを発信する力を伸ばすことが求められます。

そこで、御代田町立図書館を活用した、本コンクールを開催することにより、図書館利用を促進し、調べ方やまとめ方に対する意欲を高めるとともに、調べ学習を普及し、自ら学ぶ力の育成を図ることを目的として令和3年度より実施します。

その他コンクールの詳細について、資料に沿って説明。

屋代委員

著作権の関係ですが、作文に利用した書籍や文献の出典を明記する必要があります。このような機会を使って学校で教えることができることは良いことだと思います。

(4)「令和の日本型学校教育」について

茂木教育長

前回の総合教育会議で GIGA スクール構想により、教育像が変わると説明させていただきました。

この度文部科学省より、「令和の日本型学校教育」の構築を目指してという答申が示されました。タブレット等の端末が全ての学校に配備され、子どもたちの学びは ICT 環境を活用した学びが始まります。今すぐにこの内容を実施するというのではなく、段階的に構築していくという意味です。

目指すべき姿として、「個別最適な学び」が今後の学校教育の中で大切になってきます。主なものは支援が必要な子どもたちに重点的な指導を行い、基礎学力を身に着けさせることや学習進度に応じて、柔軟に指導方法や教材等の設定を行う「指導の個別化」があります。

その他にも、「協働的な学び」も大切です。学習は個別化の方向ですが、孤立化した学びにならないようにする必要があります。例えば、学校の外に出る学習やグループで学び合う学習が該当します。

皆様には、「令和の日本型学校教育」に目を通していただければと思います。

4. 閉会